

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 高島彩

〈 研修概要 〉

2024 年 2 月 25 日から 3 月 7 日の 12 日間ベトナム研修に参加しました。前半の 7 日間はホーチミン市にて、チョーライ病院とタンアン総合病院での実習、メコンリバーツアーに参加しました。後半の 5 日間はフエ市にて、フエ医科薬科大学との学生交流プログラム、フエ医科薬科大学附属病院での実習、ホイアンツアーに参加しました。

〈 研修参加の目的 〉

きっかけは 2 年生の時、「ベトナムへ何度も行ったことがあり、日本とは異なる点が多く勉強になるからベトナム研修は絶対に参加した方がいい」と病院実習先の診療放射線技師の方の勧めがあったことです。「どれほど魅力的な国なのか」とベトナムに惹かれる気持ちはあったものの、初の海外で家族や友達と約 2 週間も離れて過ごすことに不安を感じ、参加を迷っていました。しかし、初めてのことばかりの入学当時に持っていた、「少しでも心が惹かれたことは迷わず挑戦する」という気持ちが、大学生活に慣れ進級と共に希薄になっている、ことに気づき、このまま最後の 1 年を迎えて良いのかと内省し参加を決めました。慣れた環境から離れ初心に立ち返り、様々な体験から新たな学びを得たく研修に臨みました。

〈 研修で学んだこと 〉

チョーライ病院では、CT、MR、マンモグラフィーの実習を行いました。患者さんの数が非常に多く、実習場所まで案内して下さる時も迷わないように着いていくので精一杯でした。院内の通路では、所狭しに座ったり、横たわったりされる方が多くとても驚きました。診療放射線技師の方々が線量計を付けず、患者さんのご家族が防護エプロンを着ずに検査室で患者さんを介助され、日本とは異なり防護に厳しくないことに驚きました。また、マンモグラフィー検査では恥ずかしいと感じる方もいらっしゃるはずですが、どの患者さんも検査室に入ることを快諾してくださいました。診療放射線技師の方が検査中も患者さんに常に声かけをされている姿に、患者さんが少しでもリラックスをして検査を受けることが出来るように考えて行動されていることを強く感じました。



▲チョーライ病院での臨床実習の様子

ベトナムでは、プレゼンテーションとお礼の気持ちを込めてよっちょれという踊りを披露しました。1月頃から発表資料の修正と練習を重ね、自信を持って発表できる仕上がりになりました。ただ、いざ本番になると人前で発表することが久しぶりであり、緊張や不安、そして恥ずかしさから失敗するかもしれないと思われました。しかし、発表の場に立つと「もうやるしかない」と覚悟が決まり、緊張や恥ずかしさはなくなり、全力で挑むことができ、私が一番楽しんでいると思うほど楽しく発表することが出来ました。見て下さったチョーライ病院の方々もとても盛り上がってくださり、たくさんの拍手をいただくことが出来ました。

4日目にタンアン総合病院で実習を行いました。

CT, MR, マンモグラフィーの検査室を見学させていただいた後、私はマンモグラフィー装置についてさらに詳しく教えていただきました。まだ英語に慣れないことや日本人とベトナム人の英語の発音が異なることもあって、診療放射線技師の方の説明を半分も聞き取ることが出来ませんでした。説明後、質疑応答を1時間ほど設けてくださいましたが、聞き取れない焦りや通じ合えないかもしれない不安で頭が真っ白になり、すぐに質問をすることが出来ませんでした。気持ちを落ち着かせ玉木学長に助けをいただきながら質問を行うことが出来ましたが、終了時間になり検査室から出た瞬間不甲斐ない自分にとっても落ち込みました。そんな私をみて玉木学長が、「恥ずかしいことはないので最初は、簡単な英語でたくさん話し質問する、何度も経験していたらどんどん上手になるよ」と助言をくださいました。

メコンリバーツアーは、はちみつ紅茶やココナッツを飲む、ベトナム民謡を聞く、馬車に乗る、ジャングルクルーズをするなど初体験づくしでした。その中でも、ニシキヘビを首に巻いたことは、私にとって大きな挑戦でした。私は生き物を触ることが苦手で、絶対に無理だと思いましたが、「挑戦しにいこう！」という声に背中をおされチャレンジすることになりました。私の思いとは異なり、意外と平気であった自分がいました。自分の事は自分がよく分かっていると思っていましたが、決めつけで自ら出来る範囲を狭めていると気づきました。また、不安を捨てることは得意を増やすことに繋がると感じました。

ホイアンツアーでは、世界遺産であるホイアン旧市街を散策しました。日本人が架けたことから別名「日本人橋」と呼ばれる「来遠橋」やベトナム、中国、日本の建築様式で建てられている「フーンフンの家」など歴史ある建造物に案内していただきました。来遠橋は工事中のため残念ながら全体をみることは出来ませんが、市街へ向かう前にホイアンについて調べ、何も知らずただ見て写真を撮るのではなく得た情報を思



▲チョーライ病院で共に実習したベトナムの学生たち



▲よっちょれ



▲世界遺産ホイアン旧市街

い出しながら街並みをじっくり観察して楽しむことが出来ました。日が落ちてからは色とりどりのランタンが灯り、息を呑むほど美しい景色に感動しました。

フエでは午前中にフエ医科薬科大学の学生との交流、午後からフエ医科薬科大学附属病院で実習を行いました。CT、MRI、一般撮影を実習し、ポジショニングと画像処理を行いました。これを実感したのは、全脊椎正面撮影を行ったときです。頸椎から腸骨を順に3回に分けて撮影し、画像処理で1枚の画像にする検査でした。私はポジショニングを担当し、適切な画像を撮影できました。しかし画像処理の際に、1枚目と3枚目の画像位置が反対で変更が出来ず再撮影になりました。再撮影の原因としてポジショニングばかりを意識していましたが、画像処理が終わるまで気がぬけないと改めて強く認識しました。無駄な被ばくや検査時間をうまない為に、扱う装置の原理を学び直し積極的に触れ、出来ること出来ないことを把握します。実習中は「That's right!!」とたくさん褒めていただき、患者さんも笑顔になっていただけで4年生の実習に向けて自信ができました。多く言葉を交わしていなくても表情から感情がわかり、表情は大切であることを実感しました。



▲フエでの臨床実習の様子

研修期間中、ベトナムの方々の優しさに胸が温かくなった場面は数えきれません。ベトナムの交通量は想像をはるかに超え、横入りは当たり前でクラクションが鳴り響き交通ルールがわかりませんでした。チョーライ病院はホテルから道路を挟んで目の前でしたが、歩行者信号が青でも停止してくれないバイクや車も多い為安全に行き来できるよう病院の方々が毎日送り迎えをしてくださいました。ベトナム料理はメニューもソースの種類も迷ってしまうほど多く、初めて食べる食材にワクワクしました。食事を楽しめるよう、おすすめのメニューや食べ方を教えてください、食べ終わると何を食べたいか、美味しかったかと常に気にかけてくださいました。フエでは、短い時間の中でたくさんの思い出を作ろうと学生の皆がバイクに乗せて様々な場所に連れて行ってくれました。日陰の多い道を選び通る道にある建物の説明をしてくれ、移動中も常に楽しませようとしてくれる気持ちが行動から伝わってきました。このような優しさのおかげで出会えた素敵な場所や美味しい食べ物がたくさんあり、日本が恋しいと思っていた最初の頃が嘘かのようにベトナムを離れることが寂しく、忘れることのない思い出が出来ました。



▲ホーチミンでお世話になったチョーライ病院の方々



▲フエでお世話になったフエ医科薬科大学の方々

〈 まとめ 〉

ベトナム研修では、伝えきれない程の学びや初めての体験させていただきました。その日得た学びと感謝について毎日振り返りました。これまでの何もないと思っていた日常の中にも学びはあり、チャンスを逃していたことに気づきました。実習中ベトナムの学生たちと「日本では何の検査が多いか」「どのような検査が難しいと感じるか」とお互いに質問しあい、知りたいという気持ちをすごく感じました。自分と学生たちの学びに対する姿勢の違いにも気がつき、自分の学びに対する意識の低さを確認することが出来ました。自分の意識次第で学びはいつでもどこからでも得ることが出来、もっと学びに貪欲に過ごしていきたいです。ベトナムに来たからにはやってみよう」という気持ちから何事にも取り組み、研修前の自分では想像がつかない程の挑戦する勇気を得ることが出来ました。最初は出来なくても、成長する為に何度も諦めずに挑戦することを大切にしていきます。

〈 謝辞 〉

海外研修という貴重な機会をいただきありがとうございました。私たちの研修をサポートいただいたチョーライ病院、タンアン総合病院、フエ医科薬科大学の皆様に深く感謝申し上げます。また引率してくださった玉木長良学長、松尾悟先生、水田正芳先生、霜村康平先生、石田翔太先生、12日間を共に過ごした11人の学生たちに心から御礼申し上げます。最後に本研修に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。